

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190502773		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グッドケア・中の島 (ひまわり館)		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	令和 5年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和 5年 5月 10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou detail 022 kani=true&JigyosyoCd=0190502773-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから最寄りの地下鉄までは、徒歩5分程度で、バス停も近く、駐車場もあるので、家族や友人が来訪しやすい環境にある。周囲には、スーパーや神社・公園があり、コロナ禍の前は、時々、散歩に出かけ、近隣の住民と触れ合う機会があった。長引くコロナ禍で、現在は、家族の面会を時間制限や人数制限を設けて面会したり、感染者が増えているときは中止にしている。また、面会時にもガラス越しで面会するなどの工夫をしている。現在は、外出事は出来ていないが、毎月1回以上は、様々な出前を取ったり、職員が特別メニューを考え、入居者の目の前で調理をしたり(中華料理等)、生活に彩りを添えられるよう、工夫している。家族には、月1回 担当者が手紙を作成し、最近の様子を伝えている。また、ユニット会議で、入居者の状態やケア方法を話し合い問題点を出して、常に、より良いケアを目指して励んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和5年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28) <input type="radio"/>		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グッドケア・中の島の理念として「地域にとけこみ、いつまでも笑顔あふれるあたたかい暮らしを送っていただけるよう努めます。」と掲げ、スタッフルームの目につくところに掲示し折に触れ、確認するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で現在は交流ができていないが、以前は町内会の花壇の花植えや地域の公園の草取りに参加していた。又、近くの保育園の子供たちが定期的にホームに遊びに来ていた。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は運営推進会議に町内会の方に出席して頂き、認知症の方が日常どんな生活を送っているか知ってもらう機会としていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2か月の活動報告や外部評価の結果、ホーム内で状況や出来事を報告し意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の担当者には必要に応じて連絡、相談をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を行っている。身体拘束が行われないよう日々、ケアやグレーゾーンの見直しをしている。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会や研修でスピーチロックや身体拘束、虐待について事例などを通して学んでいる。		

グッドケア・中の島（ひまわり館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者権利擁護研修等に積極的に参加し、研修後は資料や学んだ内容を回覧し、虐待について考える機会としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要な部分は時間をかけて説明し、随時わからなかったことがなかったか確認している。また改定がある場合は、文書と口頭で説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族にはケアプラン作成時に意見、要望を聞いている。玄関には意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ユニット会議を開き、運営に関する職員の意見や提案を聞き反映させている。内容によっては、月に一度の管理者会議に持ち帰り検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人考課表をつけ、更に管理者からの評価と比べることで、本人の状態を把握できるようにしている。またその際に本人の思いを書く欄があり、活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として社内研修や外部研修を受けられるようにしている。また資格取得も推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍なので現在はできていないが、以前は札幌市や豊平区の管理者会議の参加や、豊平区在宅ケア連絡会・豊平区ケアマネジャー研修会等に参加することにより、同業者との情報交換や協力体制を作っていた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から本人の要望を聞いている。入居してからも交流を大切に、本人に寄り添い、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族の希望、要望を聞いている。電話や手紙などで本人の普段の様子を伝え、家族からの意見や希望を聞いて、対応できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を汲みながら、他のサービスの利用も視野にいれつつ、その時々に応じた支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や台所仕事など、できることは職員や他入居者と一緒に行い、協力しあう環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては、相談をしたり電話や手紙で本人の様子を伝え、共に本人を支えていけるよう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少しずつ面会を再開しており、居室での触れ合いやベランダ越しの顔合わせ、電話での通話などを状況に合わせて可能な限り行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握したうえで、会話の仲立ちなどを行い、スムーズに絆を深め合っているよう支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必要に応じて相談を受け付けており、その都度対応して支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思っていることを汲み取り、自分の意思を伝えられない方は、表情や仕草から把握できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまでの暮らしや環境などを入居時にご家族や本人から聞き取りを行ったり、資料から確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日1日の状態や様子をケース記録を使い、詳細に記録している。		

グッドケア・中の島（ひまわり館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、職員の意見やアイデアを取り入れて、カンファレンスを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務前に、連絡帳・家族対応記録・医療対応記録・業務日報を必ず読み、情報を把握し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本は病院受診同行はご家族にお願いしているが、対応できない場合は職員が同行したり、買い物代行をしたり等、決まりごとに捉われず必要な支援を行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の職場体験の受け入れや町内会の清掃や花壇の花植えや中の島神社のお祭りに参加し交流を図っていたが、コロナの影響で中止になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのかかりつけ医がいれば希望により受診継続してもらい、特にこだわりがなければ訪問診療を利用してもらっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か状態変化があれば週1回の訪問看護が来る際に相談している。緊急時は主治医に連絡し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は入院している病院と連携し、こまめに連絡を取りホームでの様子を伝えたり、退院の目処や退院後のケアについて相談したりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事や水分を摂れなくなってきたなどの状態変化があれば、早い段階でご本人や家族・医師を交え話し合いを行い、要望の聞き取りやホームでできないことをご説明し、今後のことを相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	順々に社会福祉施設等防火・救命研修会に参加し、応急手当やAEDの使用方法などを学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上、日中帯・夜間帯を想定し避難訓練を行なっている。 コロナ禍のため町内会の方に参加してもらうことはできないが、有事の際は町内会長に連絡しご協力を仰ぐことになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声掛けの際には内容や音量を気を配り対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の意思を叶えられるよう、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	得意不得意や好みに応じて、音楽やTV・趣味活動などを勧め、本人の状態や希望にそって、ゆっくり休む時間と活動的に過ごす時間を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選んでもらったり、できる部分は自分で整容できるよう用意や声かけをして支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事だけではなく、行事食や誕生日で各自の好みに合わせて提供している。 できる方には食器拭き等手伝いをお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量と水分量を確認・記録。食事が中断されても、タイミングを見ながら再度食事を促す。足りない場合は経腸栄養剤などを提供。 水分摂取は声掛けで促し、足りない場合はジュースや経口補水液の提供をしている。		

グッドケア・中の島（ひまわり館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、清潔に保つために一人一人に応じた口腔ケアや介助を個人の能力に合わせて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の確認をし、仕草や言動など様子を伺いながら声掛けを行い、自立できる方や介助の排泄支援など行う。夜間帯は排泄の声掛けやリハビリやパッドを使いトイレへ誘導し介助行う。立位困難な場合はベッド上で交換行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時には温めた牛乳を飲んでもらい、運動は歩行や手足の運動だけではなく、パワートレーナーの使用を促す。リラックスしてもらう為にも談笑したり、音楽を聞いてもらう。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方の入浴パターンを把握し、その方に合った声掛けや介助で対応している。拒否がある場合は時間や日にちを変更したり、ご自身の話を聞いたりして楽しんでもらい気持ちに添えるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	TV体操やパワートレーナー等を取り入れ、日中は出来るだけ活動的に、過ごしてもらうよう心がけている。また、体調やQOLに応じ、朝食後や昼食後に1時間程昼寝をしてもらうこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在の入居者が内服している薬がどういった薬で副作用にどういったことが起きることがあるのかをいつでも確認が出来るように1冊のファイルにまとめてあり、症状に変化があれば職員間で情報を共有し、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのQOLに合わせ、洗濯物を畳むなど支援を行っている。また、パズルや塗り絵など気の合う入居者同士で談笑できるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルスの影響で外出はなかなか出来なくなっているが、通院等の為外出が必要な場合は、ご家族様の協力の元、行っている。		

グッドケア・中の島（ひまわり館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本にご自身でお金の管理が出来る方は、小額をご自身で管理されている。お金の管理が厳しい方は、施設にてお金を要することが少ない為、ご家族様が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様、ご家族様の希望に応じ、電話をしたりハガキを書いてもらい対応を行っている。個人で携帯電話を所有されている場合は、ご本人様にお任せしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が居心地の良い環境で作るため季節感を大切にしたり飾り付けをしている。また自然光を大切にしたり、なるべく蛍光灯の光が刺激にならないように、日中は電気を消したり、調節し対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたい時間は居室で過ごしたり、共有空間は入居者様同士で話せる場所づくりを心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家具や装飾品や家族写真等を飾り、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを分かりやすいように張り紙をしたり、脱衣所には目印になるように「湯」の暖簾が掛かっている。		